

伊豆半島の温泉

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025837

伊豆半島の温泉

鮫 島 輝 彦

静岡県の東部の伊豆半島は富士・箱根と一連の国立公園地域で、山あり、海あり、温泉ありの佳境であることは周知の通りである。

温泉の量からいえば静岡県は毎分 105 トンで、北海道 (140 トン)、福島県 (133 トン)、大分県 (107 トン) に次ぎ全国第四位を占め、伊豆半島の温泉は 102 トンで静岡県の温泉の大部分がここに集中している。我国の人口最密集地帯に近くて、東海道沿いの最高の立地条件を満たす伊豆半島の温泉は当然日本第一の経済効果を生み出す温泉でもある。温泉宿泊施設数 1,800, その収容力 75,000 人、年間延宿泊者数約 1,300 万人で、日本の全人口の 1/8 が伊豆の温泉に年に一泊していることになる。

伊豆半島には 30 数箇所温泉地があるが市町村別にまとめて見ると表 1 に示すような分布をもっており、総源泉数 2,200, このうち利用中の源泉 1,200, それらの分布は図 1 を御覧戴きたい。

自然科学的な意味で温泉の大きさを示すには湧出する温泉の運び出す熱量に依るので、伊豆半島の温泉をこの観点から見ると、熱海市 (泉, 伊豆山, 熱海, 網代), 伊東市 (宇佐見, 伊東, 吉田, 赤沢), 東伊豆町 (大川, 北川, 熱川, 片瀬, 白田, 稲取) の三市町がそれぞれ約 100 万 カロリー/分で断然大きい。次いで南伊豆町 (下賀茂) の 40 万カロリー、河津町 (谷津, 峰, 湯ヶ野, 天城), 下田町 (蓮台寺, 河内, 下田), 伊豆長岡町 (長岡, 古奈) の三町のそれぞれ 25 万カロリーが続く。

温泉の温度が特に高いのは南伊豆町 (下賀茂) の平均 89° で、ここには 20 本の沸騰泉がある。東伊豆町の平均も 83° と高く、熱川・片瀬・白田に合計 35 本の沸騰泉がある。河津町の谷津と峰にも合計 5 本の沸騰泉があり、峰の玉峰館の源泉は東洋一の大噴湯と称し、日曜日の朝覆いを除して噴湯を見せている。熱海にもかつて数本の沸騰泉があったが水位低下のため消滅した。伊豆半島全体の温泉の平均湯温は 58.3° で高温泉地域といえよう。

「既存温泉の問題」

温泉は自然湧出の時代は問題ないが、動力によって汲上げると必ず水位低下が起る。旅館の数が増えて温泉の需要が増し、大量の汲上を行なうと水位がどんどん下って、遂には汲上が出来なくなったり、又地下水や海水の流入をまねいて温度の著るしい低下を来すこともある。

伊豆半島では伊豆長岡、修善寺、熱海などが水位低下が著るしい。これらの温泉は決して枯渇してしまっただけではなく、現在も高温の湯が多量に汲上げられているのだが、水位低下のために 15 馬力、20 馬力の大型ポンプを使わなければ湯が上らないのである。

これらの温泉はいずれもかつて地表に温泉が自噴していたのに、機械揚湯がはじまると水位が低下し、遂に今では長岡 - 200 m, 修善寺 - 100 m, 熱海 - 100 m となって大馬力のポンプで揚湯しなけ

ればお湯が上らなくなってしまう。

このような温泉の枯渇傾向に対処するため、県が新規温泉の掘さくを認めない温泉保護地域を昭和34年から昭和39年迄の間に順次設定し、また既存温泉源から100m離れないと新規温泉の掘さくを認めない旧規制を200mに改めたが、既に源泉井の過密に陥っていた温泉場では水位低下を喰止めるのに手遅れであった。

もっとも水位低下の甚しい伊豆長岡温泉では昭和42年から一日五時間全部の井戸のポンプを止めて、「時間節湯」を実施し、又温泉井に注水する泉源灌養法をも実行し始めた。このため従来毎年10mもの速度で低下の続いていた水位の低下が止まりむしろ回復の傾向に転じた。

「新温泉の開発」

近年伊豆半島では新温泉が続々と開発されている。半島全体で毎年50～60本の掘さくが行なわれ、このうち約10本が既存温泉から遠く離れた新地域に行なわれる。近年のボーリング機械の進歩と技術の改良は目覚ましいものがあり、1日20m～30mもの速度で掘進するので1,000mの深さの井戸が3、4カ月で完成してしまう。ワイヤラインによるコアの連続引上げも一般化しつつある。

温泉井戸の深度も最近掘さくされるものは平均500mを越え、1,000mに達するものも珍らしくなくなった。

東伊豆町の稲取温泉は昭和16年に42°の温泉が一本当って後久しく成功しなかった。昭和29年に第二帝産閣源泉が60°の多量の湯に当りその後急激に発展した。現在20本の源泉から平均湯温68°

表1 伊豆半島の温泉(市町村別)の実態

市 町 村	総源泉数	総湧出量 ℓ/min	平均温度 ℃	総熱量(15℃基準) Cal/min	宿 泊 施 設 数	収容定員 人	年間延宿泊 利用人員 千人
熱 海 市	477	19,578.2	63.14	942,551.0	723	34,050	4,541
伊 東 市	802	33,826.0	42.50	930,262.8	507	13,365	2,286
東 伊 豆 町	191	15,343.1	83.91	1,057,234.4	72	4,289	1,481
河 津 町	133	4,631.0	70.00	235,007.0	38	1,664	333
下 田 町	77	5,945.0	54.46	234,569.0	74	2,289	953
南 伊 豆 町	113	5,254.3	89.39	396,874.0	13	531	149
松 崎 町	18	1,733.8	46.12	53,955.7	73	1,004	84
西 伊 豆 町	8	1,597.0	34.04	30,406.9	13	734	103
土 肥 町	51	3,248.4	52.14	120,633.8	25	1,236	231
天城湯ヶ島町	58	3,188.5	46.43	100,206.5	33	2,481	476
中 伊 豆 町	4	116.9	45.01	3,507.7	4	206	27
修善寺町,大仁町	95	2,939.7	52.95	111,557.7	52	2,482	813
伊豆長岡町,菰山町 函南町,三島市	185	5,011.1	50.89	255,001.1	112	10,178	1,204
伊豆半島計	2,213	102,413.0	58.32	4,471,767.6	1,734	74,359	12,681

毎分 2,000 リットルの湧泉があり、15軒の大型旅館が1,000人近くを収容する一大温泉場に発展している。

伊東市の宇佐美温泉は昭和35年に45°の実用泉が掘り当てられ、昭和39年から続々ボーリングが行なわれ、現在は4本の源泉から平均湯温46°の湯が毎分600リットル出ているが更に数本のボーリングが実施されつつあり将に開発途上にある。

松崎温泉は松崎町東方の桜田に昭和39年60°の温泉が町当局によって掘り当てられ、現在5本の井戸から平均湯温49°、毎分450リットルの温泉が供給されている。

松崎町南部の雲見・石部温泉は風光明媚な海岸にあり、磯釣、海水浴の好適地でもある。昭和32年雲見で42°の温泉が漁業組合の手で開発され、昭和42年に石部の海岸に湯温52°、毎分700リットルの強力な源泉が掘り当てられ、昭和45年には岩地で60°750リットルの源泉も開発された。附近数十軒の民宿は皆温泉付である。

仁科温泉(堂ヶ島温泉)は昭和37年堂ヶ島で湯温49°、毎分300リットルの好源泉が掘り当てられたのに始まり、続いて安城半島に50°、毎分500リットルの源泉が開発され、昭和44年には堂ヶ島北方の浮島で46°の温泉が出た。さらにこの附近で数本が掘りさく中で、大型の旅館が出来はじめた。

中伊豆町の白岩温泉は昭和38年に町営の温泉が成功し48°の温泉が湧出した。リハビリテーションを主とする温泉病院を誘致し、近代的温泉療養に活用されているが、二号泉も成功を見たので温泉街も出現するであろう。

下田町の西部の横川・加増野では最近52°と46°の豊富な温泉に成功した。静かな山中の温泉別荘地に活用されよう。

これらの他伊東市南部の吉田や赤沢、西海岸の八木沢、南伊豆町の毛倉野などにも続々と新温泉が見つかって来ており、伊豆半島の温泉地図は塗りかえられつつあるといえよう。

しかしこのような新温泉の開発の盛況から伊豆半島は掘りさえすれば何処でも温泉が出るとするのは大きな誤りである。今掘られている坑井について、成功を見るのは僅か1/3程度に過ぎず、新しい所に掘っているものでは1/4、すなわち4本に1本の割でしか成功していないのである。1m掘るのに1万5千円から2万円の費用を要することを考えると、可成り莫大な開発経費を投入していることになる。

温泉を掘る人が事前に適当な機関に相談して温泉地質学的調査を行なってから掘りさく位置を選定すれば、無駄を半分以下にすることができるであろう。

ともあれ伊豆半島の温泉は今一大転機に立っている。西海岸の新温泉が続々と名乗りを挙げ、東海岸偏重の時代が過ぎ去ろうとしている。遅れていた西海岸道路も整備され、数年のうちには波勝崎の奇勝を含む西海岸南部に有料道も開通する。古き伊豆は新しい伊豆の開発によって更に再び魅力をそえつつある。

(静岡大学教養部)

図1 伊豆半島の温泉の源泉井の分布

